

令和2年度

被災世帯等に対するパーソナルサポート事業

実績報告書

公益財団法人 共生地域創造財団

目 次

1. はじめに-----	1
2. 活動目標値に対する実績-----	2
2-1. 活動訪問-----	2
2-2. 生活再建相談支援-----	3
2-3. 交流機会創出活動-----	3
2-4. ケースカンファレンス-----	6
2-5. データベース化（支援活動履歴の記録）-----	7
2-6. 他支援機関・協働-----	8
2-7. 事例検討勉強会-----	10
2-8. 研修実績-----	10
3. その他の事業成果-----	12
3-1. 緊急一時支援の実績-----	12
(a) 食糧支援実績-----	12
4. 統括および次年度への展望-----	12

添付資料 別紙：非公開資料

1. はじめに

当財団は、平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災を機に被災者支援の活動を開始しました。平成 24 年度より開始した「大船渡みらいサポート事業」では、「在宅被災世帯」を対象に実態把握と見守り支援を 2 年間にわたり実施しました。平成 26 年度より開始した「被災世帯等へのパーソナルサポート事業」においては、前身事業の活動を引き継ぎ、在宅被災世帯を主な対象とした見守り支援からスタートしています。しかし、被災地の状況は当初事業から大きく変化しており、それまでの見守り型の支援から課題解決型の支援、単独型から地域連携型の支援への対応が求められ、地域にある「人」や「制度」などの資源を活用して生活再建を目指す支援を行いました。住民自身の力や地域力を連関させる、復興に向けた重要な取り組みであったと言えます。

平成 26 年度末から当事業が参画した「大船渡市応急仮設住宅支援協議会」では、仮設住宅からの生活再建の目処が立たず、将来の見通しを立てることが困難な世帯に対し、課題解決型の支援を行う役割を担いました。その後、仮設住宅団地の撤去・集約の進捗に合わせながら、協議会内での連携・協働体制の構築を図り、多機関連携による支援体制づくりを進めました。

これらの支援体制をもとに孤立や生活困窮が窺われる世帯への伴走を実施する一方、訪問活動を通じて制度の案内や手続きサポート、経過確認を進めることで仮設住宅からの円滑な転居へと結びつけることができました。平成 30 年度には災害公営住宅への全戸訪問を実施し今後の災害公営住宅におけるアウトリーチ活動の土台を作りました。

令和 2 年度は新型コロナウイルス発生による全国的な緊急事態宣言からスタートし、訪問活動は社会的距離を保持する活動となりました。交流機会創出活動は自粛期間中は在宅で手軽に出来るキットなどの配布を行いました。また居場所サロンとして事業所内に軽作業の場所を設置し、お茶っこの居場所および中間就労的な作業場としての利用を開始しました。

訪問世帯は年月の経過とともに高齢化が進み、福祉との連携は必須のものとなっています。制度上、行政や福祉がカバーしきれない部分の一翼を担えるよう伴走型支援を実施しながら地域内に伴走者（支援者）も増やす取り組みを行いました。

当財団の活動は一貫して、支援が届きにくく、自ら助けを求めることが難しい状況に置かれている人への支援を目的として来ました。被災住民が、生活再建後も安心して生活して行くことができる地域を創造することが、当財団の使命であると考えます。今後も、大船渡市の復興に寄与できるよう、更に支援の質の向上に努めて参ります。皆様のより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2. 活動目標値に対する実績

2-1. 訪問活動

被災世帯を主な対象とし、継続支援および新規調査のための戸別訪問活動、災害公営住宅に転居後の孤立対応訪問、在宅被災者の生活課題への訪問相談等のための訪問活動を行った。

(単位:件)

	2020年度												累計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
継続訪問	57	62	88	92	88	85	98	84	111	89	39	54	947
新規調査	0	0	0	0	0	2	0	3	1	2	0	0	8
訪問合計	57	62	88	92	88	87	98	87	112	91	39	54	955

目標値

件数	月	目標件数
70	12	840件

目標値：70件/月×12ヶ月＝840件

達成率

訪問総計	目標件数	達成率
947	840	112.74%

達成率：947/840＝112.74%

在宅被災世帯再調査実績

	地区名	再調査済み	不在	その他	計
1	大船渡町	276	73	95	444
2	赤崎町	104	45	11	160
3	三陸町	184	56	22	262
4	猪川・立根町	52	25	5	82
5	盛町	138	35	43	216
6	末崎町	193	37	40	270
	総計	947	271	216	1434

注記)

不在：数回訪問しても確認できなかった世帯の他に施設入所や病院入院および対象者死亡等の件数

その他：転居先不明や居住実態が把握できなかった世帯。

2-2. 生活再建相談支援

今年度は在宅被災者と災害公営住宅へ転居後の被災者に対する生活困窮、高齢者福祉等の生活相談が中心であり、必要に応じた他機関へのつなぎ等を行った。

(単位:件)

	2020年度												累計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
件数	4	5	5	4	4	4	5	3	4	3	2	4	47

目標値

件数	月	目標件数
5	12	60件

目標値：5件／月×12ヶ月＝60件

達成率

訪問総計	目標件数	達成率
47	60	78.33%

達成率：47／60＝78.33%

2-3. 交流機会創出活動

今年度はサロン活動以外にも地域が抱えている課題を把握するために地域住民や各団体等のヒアリングや相談にも重点をおいて活動を実施し、地域における孤立の解消や世代間交流の活性化に取り組んだ。

また、孤立傾向にあつてサロンへの参加が困難な世帯については、昨年度と同様に訪問支援の中で手芸などの趣味や余暇の活動につながる題材の提供を行うことでサロンに向けた働きかけを行い、孤立の解消に向けた取り組みを図るなど、新たな可能性を見出す活動を継続的に行った。

月日	名称・内容	主催・協力機関	参加者
6月	個別サロン 妻が入院中、生活のモチベーション回復のため野菜の苗を購入し植え付け作業を手伝う。	余暇支援	1
	「男のカレーサロン」 独居生活になり引きこもりがちになった高齢男性とコミュニケーションがうまく取れない20代男性2人が協力しながら調理作業をすることで交流を深めた	後ノ入りホッとハウス	2

6月	趣味サロン 手芸好きの高齢独居のお宅で手芸サ ロン	余暇支援	1
7月	趣味サロン (あずま袋作成)	余暇支援	1
	趣味サロン (あずま袋作成)	余暇支援	1
	趣味サロン (あずま袋作成)	余暇支援	1
8月	妻が入院、独居生活になりやる気を喪失 モチベーション回復の機会のひとつに不安や戸惑いがある生活に必要な買い物の同行支援を行った。	外出支援	1
	趣味サロン (あずま袋作成)	余暇支援	1
9月	趣味サロン (あずま袋作成)	余暇支援	1
	趣味サロン (ぬりえ)	余暇支援	1
	趣味サロン (あずま袋作成)	余暇支援	1
10月	高齢独居、他者との交流も少なくコロナ禍で外出機会が少なくなったため、閑董院と玉山高原の紅葉を見学し有意義な時間を過ごした。	外出支援	1
	妻が入院、独居生活になりやる気を喪失 モチベーション回復の機会のひとつに不安や戸惑いがある生活に必要な買い物の同行支援を行った。	外出支援	1
	高齢独居、他者との交流も少なくコロナ禍で外出機会が少なくなったため、閑董院と玉山高原の紅葉を見学し有意義な時間を過ごした。	外出支援	1
11月	高齢独居、コロナ禍という時節柄、外出機会が少なくなり趣味の手芸の要望があったので自宅にて万華鏡作りをおこなった。	余暇支援	1
	コロナ禍で長期自粛生活だったが友人同士で外出したいと要望があり近隣で紅葉狩りや商業施設に立ち寄るなど会話も弾み久しぶりに友人との時間を持った。	外出支援	2
	コロナ禍で外出機会が少なくなった高齢者にクリスマスの雰囲気や自作の作品で和んでもらえるよう自宅にてマカロニで作るクリスマスリースづくりを行った。	余暇支援	1

11月	コロナ禍でイベント開催が困難となっていたが住民からの要望があり管理者の承諾を得て、感染予防対策を行った上でサロンを開催した。	上山東アパート集会所	7
	コロナ禍でイベント開催が困難となっていたが住民からの要望があり管理者の承諾を得て、感染予防対策を行った上でサロンを開催した。	野々田アパート集会所	8
	自宅でクリスマスリースづくり	余暇支援	2
	自宅でクリスマスリースづくり	余暇支援	2
12月	自宅でクリスマスリースづくり	余暇支援	1
	自宅でクリスマスリースづくり	余暇支援	1
	自宅でクリスマスリースづくり	余暇支援	1
	自宅でクリスマスリースづくり	余暇支援	1
	自宅でクリスマスリースづくり	余暇支援	1
	自宅でクリスマスリースづくり	余暇支援	1
	コロナ禍でイベント開催が困難となっていたが住民からの要望があり管理者の承諾を得て、感染予防対策を行った上でサロンを開催した。	平団地5号棟集会所	3
	自宅でクリスマスリースづくり	余暇支援	2
	自宅でクリスマスリースづくり	余暇支援	1
	他者との交流がうまくできない高齢独居男性、社会とのつながりの一助となればと外出支援を行った。	外出支援	1
自宅でクリスマスリースづくり	余暇支援	3	
2月	趣味サロン（折り紙）	余暇支援	
合 計			54

目標値

件数	月	目標件数
4	12	48件

目標値：4件／月×12ヶ月＝48件

達成率

サロン	目標件数	達成率
54	48	112.50%

達成率：54／48＝112.50%

2-4. ケースカンファレンス

支援対象世帯情報の共有と、支援プラン・リプラン検討(ケースカンファレンス)、その他情報共有のためのスタッフ全体ミーティングを行い、支援に必要な討議・検討を行った。

(他機関と共同で開催した支援担当者会議やモニタリング(経過確認)等は含まれていない。)

プラン・リプラン検討			全体MTG		
月	日付	実施回数	月	日付	実施回数
4月	-	0	4月	3日、10日、17日、24日	4
5月	20日、27日	5	5月	1日、8日、15日、22日、29日	5
6月	4日、10日	4	6月	5日、12日、19日、26日	4
7月	8日、18日	3	7月	3日、10日、17日、31日	4
8月	-	0	8月	7日、21日、28日	3
9月	23日	1	9月	4日、11日、18日、25日	4
10月	15日	2	10月	2日、9日、16日、23日、23日、30日	6
11月	18日	1	11月	6日、13日、20日、27日、27日	5
12月	-	0	12月	4日、11日、18日、29日	4
1月	-	0	1月	15日、22日、29日	3
2月	-	0	2月	5日、12日、19日、26日	4
3月	-	0	3月	5日、12日、19日、26日	4
合計		16	合計		50

目標値

件数	月	目標件数
4	12	48件

目標値：4回/月×12ヶ月=48回

達成率

実施件数	目標件数	達成率
50	48	104.17%

達成率：50/48=129.1%

2-5. データベース化（支援活動履歴の記録）

訪問活動および他機関へのつなぎ等の支援活動を行い、その記録をデータベース化した。

戸別支援活動実績集計表

(単位:件)

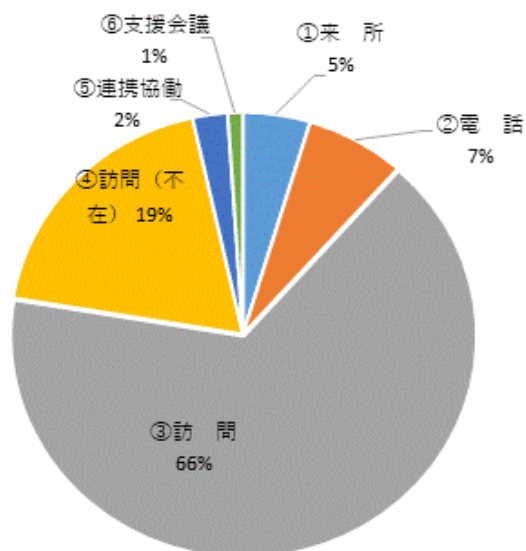
項目	2020年度												累計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①来所	0	2	7	8	9	7	6	7	4	4	3	10	67
②電話	8	8	16	5	6	1	8	10	5	10	16	6	99
③訪問	57	62	88	92	88	85	98	84	111	89	39	54	947
④訪問(不在)	27	19	23	22	22	23	29	29	27	19	10	21	271
⑤連携協働	1	4	2	4	4	3	5	3	3	3	1	2	35
⑥支援会議	0	4	4	3	0	1	2	1	0	0	0	0	15
件数	93	99	140	134	129	120	148	134	150	125	69	93	1,434

新規調査実績集計表

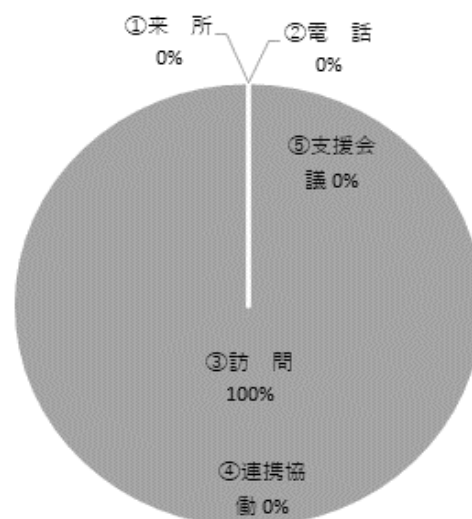
(単位:件)

項目	2020年度												累計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
①来所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②電話	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③訪問	0	0	0	0	0	2	0	3	1	2	0	0	8
④連携協働	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
⑤支援会議	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
件数	0	0	0	0	0	2	0	3	1	2	0	0	8

戸別支援活動実績



新規調査実績



2-6. 他機関連携・協働

支援担当者会議等の実施状況を含みます。

月	連携先	アセスNo.	専門分野	内容
4月	地域包括ケアセンター	759	高齢者福祉	戸羽整形外科に地域包括ケアセンター担当者が通院同行。医師から手術の緊急性はなく通院もしなくて良いとの結論。連携し状況確認と情報共有。
5月	法テラス	131	法律	亡くなった子息名義の支払い請求ハガキがきたとの相談を受けた。当時相続放棄の手続きを取っていたが法テラスに同行支援をして、今回の債務者に弁護士より架電及び状況報告。また郵便局にて子息名義の郵便物について配達の差し止めの処置をとった。
	社会福祉協議会	505	権利擁護	権利擁護担当に特別定額給付金と加算支援金についての確認。
6月	JA立根介護支援センター	888	介護	本人から昨日座椅子に座ってひっくり返り頭から出血。自分で消毒をしカットバンを貼ったがまだ血が止まらないとのことで担当ケアマネジャーと情報共有を行った。
	県立大船渡病院患者総合支援センター 患者相談室長	759	医療	22日午前大船渡病院より本人が救急搬送されたとの連絡が入る。薬局敷地内で酩酊していたところを搬送されたとの事。病院まで迎えに行き自宅まで送迎。午後再訪し状況確認した上で地域包括センターの担当者と情報共有
	地域包括ケアセンター		高齢者福祉	
7月	地域包括ケアセンター	333	介護	緊急通報装置の設置、介護保険に関して情報共有。
	大船渡市役所税務課	823	手続き支援	県営住宅家賃算出のため代理人で所得課税証明書受理確認
	社会福祉協議会	766	相談・情報共有	本人からゴミ出し時に転倒して動けないとの支援要請が社会福祉協議会にあり、担当者より共生に訪問依頼があり確認訪問。担当ケアマネジャーへ現状を連絡し、状況を共有。
	富美岡荘居宅		介護	
8月	福祉の里指定居宅介護支援事業所	420	介護	訪問時窓を閉め切っていて部屋の温度が高く熱中症の危険あり、担当ケアマネジャーに連絡し状況を共有
	地域包括ケアセンター	333	介護	緊急通報装置設置確認、状況を共有
	富美岡荘指定居宅介護支援事業所	594	介護	状況確認訪問で状況共有

9月	地域包括ケアセンター	333	介護	家の中で転倒し左肩を骨折。状況確認訪問をして状況共有
	地域包括ケアセンター	131	情報提供共有	避難行要支援者情報提供同意書の確認
	カリタス大船渡ベース		見守り	情報提供と情報共有、連携支援
10月	JA立根介護支援センター	910	介護	入浴時の体位移動等が怖く独りで入浴が出来ないと不安を訴えられ、本人の意思確認をした上で担当ケアマネジャーに連絡・伝達
	三陸福祉会指定居宅介護支援事業所	333	介護	状況確認訪問で状況共有
	地域包括ケアセンター	50	介護	市外に入院中。退院後は市外の介護施設を希望しているとの情報提供
	地域包括ケアセンター	844	福祉	夫が病気になり悩んでいる。もともと精神的に不安定な部分もあったため状況共有
	居場所ハウス	217	地域交流	状況確認と情報共有
	富美岡荘指定居宅介護支援事業所	766	介護	ケアマネジャーと現状と今後の支援についてのケース会議・情報共有
11月	カリタス大船渡ベース	66	見守り	本人が入院されたとの情報提供
	富美岡荘指定居宅介護支援事業所	766	介護	食糧支援を含めた本人への今後の対応について
12月	富美岡荘指定居宅介護支援事業所	766	介護	食糧支援を含めた本人への今後の対応について
	JA立根介護支援センター	910	介護	坂道でシルバーカーを離してしまい転倒したこと。擦りむいただけで骨折はなかったことを情報共有
1月	富美岡荘指定居宅介護支援事業所	766	介護	担当ケアマネジャー・ヘルパーと支援担当者調整会議
	寿広大船渡市営住宅管理センター	910	介護	共益費の回収ができない為、担当ケアマネジャーの情報共有
	末崎町デイサービスセンター	217	介護	情報提供と情報共有
2月	福祉の里指定居宅介護支援事業所	420	介護	状況確認と情報共有
3月	富美岡荘指定居宅介護支援事業所	594	介護	金銭管理に関しての情報共有
	地域福祉課	797	福祉	家族の健康不安と就労相談の情報共有

2-7. 事例検討・勉強会

関係領域でパーソナルサポートを行っている他機関より講師を招き、当事業内での支援ケースについて検討、意見交換を行うことで、支援内容の向上を図っている

月 日	研修内容	講 師
5月25日	困難ケースの事例検討	スタッフ
6月17日	社会福祉協議会にて就労支援グループワーク	ユニバーサル就労センタースタッフ

2-8. 研修実績

スタッフの個別支援スキルの向上や地域づくりのノウハウの吸収、組織運営の知識を身につけるための研修会に参加した。

	日付	研修名	研修概要	時間	参加者
1	6月17日	就労支援	社会福祉協議会にて就労支援グループワーク視察	2:30	5
2	7月15日	第1回気仙地域精神保健福祉担当者連絡会	講演:介護うつと予防～介護する人、される人、それぞれの思いから心の支援を考える	1:30	2
3	7月31日	第1回大船渡市心の健康づくり推進連絡会	講演:気仙管内の新型コロナウイルス感染症に関する相談状況とコロナ禍における自殺対策について	1:30	2
4	9月16日	第2回気仙地域精神保健福祉担当者連絡会	岩手県及び気仙地域の自殺の状況について 気仙地域の精神保健福祉・自殺予防対策等の取り組み状況について	1:30	2
5	10月13日	グリーフケアセミナー	講演:「新型コロナウイルス感染の時代にあって-改めて悲嘆を考える-」	1:30	4
6	10月14日	グリーフケアサロン	支援者向け学習会	2:00	4
7	10月21日	第3回気仙地域精神保健福祉担当者連絡会	事例検討:グループスパービジョンの手法から	1:30	2

4	9月16日	第2回気仙地域精神保健福祉担当者連絡会	岩手県及び気仙地域の自殺の状況について 気仙地域の精神保健福祉・自殺予防対策等の取り組み状況について	1:30	2
5	10月13日	グリーンケアセミナー	講演:「新型コロナウイルス感染の時代にあって-改めて悲嘆を考える-」	1:30	4
6	10月14日	グリーンケアサロン	支援者向け学習会	2:00	4
7	10月21日	第3回気仙地域精神保健福祉担当者連絡会	事例検討:グループスパービジョンの手法から	1:30	2
8	11月25日	地域おこし協力隊起業セミナー	オンライン:協力隊による、協力隊のためのキャリアプラン研修	3:00	2
9	12月22日	令和2年度気仙地域傾聴ボランティア公開講座	講義及び講演 「聞き上手になるために～心に寄り添う傾聴とは～」	1:30	4
10	1月20日	第3回気仙地域精神保健福祉担当者連絡会 気仙地域障がい者自立支援協議会地域移行部会研修会	講演:「高齢精神障がい者の地域支援について」	1:30	2
11	3月3日	令和2年度 市民講座 「こころのじかん」	「スピリチュアリティと心理学」	1:30	2
12	3月4日	令和2年度 市民講座 「こころのじかん」	「悩みに対する心理的アプローチ」	1:30	1
13	3月5日	令和2年度 市民講座 「こころのじかん」	「ストレス対策の基本-自分でできるリラクゼーション法-」	1:30	2
				22:30	34

※研修実績のまとめ

講座数	受講時間	参加人数
13	22時間30分	34

3. その他の事業成果

3-1. 緊急一時支援の実績

(a) 食料支援実績

特定非営利活動法人フードバンク岩手の協力により食料支援物資を準備、低所得・孤立世帯や家計課題を抱える世帯に対して、地元の社会福祉法人、生活困窮者自立相談支援等と情報共有・協働しながら、支援プランに基づいた緊急一時支援を実施している。

主食（白米）	主食（麺類・アルファ化米）	副食（缶詰）	副食（レトルト類）	提供世帯数
28kg	129 個	25 個	105 個	28 世帯

4. 総括および次年度への展望

今年度は、未だかつてない新型コロナウイルス発生・緊急事態宣言が発令され、急用・必要度の高い訪問以外は訪問活動を一時控えることになり電話で安否確認するなど行った。その間に、被災者生活再建支援金（加算支援金）の周知業務を行った。緊急事態宣言解除後は社会的距離を保持し感染防止に留意しながらの訪問となった。経年により世帯状況にも目に見えて変化が生じ始めている印象が強い。

死亡、入院、発病、施設入所、介護保険の利用等の変化が主であり、高齢独居世帯や高齢世帯の訪問需要が増えている。これらの課題は在宅訪問世帯や災害公営住宅においても顕著となり始めている。災害公営住宅においては自治会や関係機関と歩調を合わせる中で、高齢世帯・高齢独居世帯・独居世帯などを中心にアウトリーチを実施し見え隠れする課題に留意しながら見守り体制を強化した。

二回目の緊急事態宣言発令中には自宅に籠りがちな方々に対して、自宅で気軽に出来る軽体操の情報やコロナ予防の意識喚起を含めた一部手書きのメッセージを添えて世帯状況に配慮した数種類の内容を「お便り」として訪問世帯に配布した。

交流機会創出活動は新型コロナウイルス感染拡大防止のために多人数で集まる機会はなかったが、訪問先で要望のある個人には「手作りマスク」キットやエコバックの代わりになる「東袋」のキットを配布した。女性の希望者には個別サロンとして訪問先で一緒に作業なども行った。当事業所初となる個別対応サロンとして家

庭菜園や独居男性限定の昼食サロンを開催した。また、新たな試みとして軽作業などを行うことで自宅に籠りがちな方々が集えるような居場所づくりの環境を事務所内に徐々に整えている。

次年度は経過確・安否確認訪問をしながら生活相談や世帯状況に応じた参加支援、同行支援などフレイル予防を意識した支援を行っていききたい。また、文字媒体、紙ベースによる繋がり合いなども取り入れていく。

交流機会創出活動は需要に応じ各所において小さなサロン活動や外出イベントなどを実施しながら徐々に参加メンバーを増やすことで関係性などへの負荷を減らし参加者が継続参加できるようにしていきたい。また、多人数が苦手な向きの方々には個別サロンを順次開催するようしていきたい。これらの延長上においてサロンとサロンを繋ぎながらその輪を広げ、また、共催などを含め外部にも働きかけながら、各参加者自身が他者に対して働きかけをすることができるような環境となり、その先には支え合いの関係が張り巡らされた地域づくりにつなげたい。

今まで積み重ねてきた知見、知識、ネットワークをフル活用し活動するなかで、被災者支援はもとより総合的な支援に枠組みを広げられるようスタッフ一同のレベルアップを図り、当財団の理念である「もっとも小さくされたものへの支援」の大船渡市における具現化に向け、今後も精進して行きたい。

以上